



## ワンストップ型「あいりん地域トータルケア・システム」 構築の提案 ～あいりん総合センター建て替えその他と併せて～

<文と絵> ありむら潜(釜ヶ崎のまち再生フォーラム)

あいりん地域には実に多様な支援団体・施設等が集積している。各団体は一生懸命である一方、実態はけっこうバラバラである。それを就労・福祉・医療・居場所づくり等のワン・ストップ型支援体制（一人ひとりを地域一体化で総合サポートする体制）にする。「こうこういうネックがあるから、ここをこうすればもっと機能する」等の実践論的議論を地域諸団体にもお願いする、その出発点として提示したい。

### <現段階でのイメージ>

1) 新規流入者が、たとえば当地の玄関口であるあいりん総合センターの相談窓口に来る。求職が主訴だが、たいがい多面的な困難を抱えている。聴き取りを経て、総合コーディネーターがその人に合う各種地域資源を複数マッチングしていく。たとえば、就労支援では労働福祉センター・チャレンジネット等、福祉面では更生相談所・あいりん相談室・生活保護施設・子ども支援ネット等、医療・介護では社会医療センター（特に若年層で障害の疑いのある場合の就労支援には精神科の充実と関与こそ重要と考える）・結核対策取り組み団体・アルコール依存症者支援団体や介護事業所、居住支援ではサポータィハウス連絡協議会・簡易宿所組合・良心的な不動産業者・夜回り団体、生活意識支援面では単身高齢者や若者への文化・芸術活動支援団体など、公的機関・社会福祉法人・NPO 団体等さまざまを、である。

2) しくみが機能するには有能なコーディネーター（委員会を創設）や強力な連携体制も必要。これまでは、国・府・市・民の間の壁や溝に阻まれていた。府の系列の労働福祉センターと市立の更生相談所の連携すら疎遠だった。今後は府市統合どころか、国・府・市・社会福祉法人・NPO 等を越えた「究極のケース統合」である。相談者最優先なら自然にそうなる。

3) そして、この際、あいりん総合センターは建て替え、諸団体にリニューアル化のドミノを起こす。労働福祉センターに最大限近接して医療センターや市立更生相談所を立地させ（組織統合もあり）、それを含む諸団体もブースを並べる（スタッフが詰める）、というワン・ストップ型支援陣形を敷く。これは、地域全体でのケース検討会が頻繁に開かれることも意味する。以下も加えて、地域丸ごとの就労支援体制をグレードアップする。就労支援を前面に押し出す構え方こそ市民も納得する方向であろう。

\*就労困難層も視野に入れた新しい型の就労支援を軸とするために、西成労働福祉センターは総合受付と総合支援窓口を開設し、現在変身中である。それに合わせて、職種でも雇用形態でも技能講習科目でも従来の「建設・日雇い」偏重から多様化を図りつつある(求人登録事業所の業種も変容しつつある)。

\*医療センターは精神科増強のために医師も市大系列依存を脱し、府下・全国から「離島プロジェクト」的な公募を行なう等が必要。

\*その他諸団体の内部改革もこの地域トータル・ケアへの協力を含んだものにしていただきたい。

\*このしくみにパーソナル・サポーター制度(PS)を付けても良い。しかし、当案はむしろ、あいりん地域が労働者コミュニティ時代から持つ独特の「場の力」を継承・発展させ、活用する「PS の対案または補強案」のつもり。1対1のリスクと息苦しさを緩和できる。

\*地域内に実践の原型をさがすとすれば、大人へのサポート世界ではなく、むしろ「あいりん子ども連絡会」だと言えるかも。